

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1348号 平成30年4月15日

4月号

アメリカと北朝鮮の今後を予測する	本紙編集部	1
習近平皇帝の中国が変わる		3
LGBT 大流行のきざし		4
ジプシーの「漂泊性」から見えてくるもの.....	むすびの集ひ事務局.....	5
本部、地方本部活動報告		6

本社 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 2-5-24-103
電話・FAX (03)5313-0215
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社
主幹・編集長/谷田 透

アメリカと北朝鮮の今後を予測する

本紙編集部

韓国の文在寅大統領が仲介したことになっているが、金正恩が「君子豹変す」さながらに、アメリカのトランプ大統領と直接話し合いたいと言いつい出し、その舌の根も乾かぬうちに突如北京を訪問、習近平との面談を果たすなど、半島情勢は風雲急を告げている。

トランプ大統領に対しては「悪魔、気狂い、老いばれ、人間以下、消えて無くなれ」などと言いたい放題の悪態と罵詈雑言を繰り返してきた相手に、それほど簡単にラブコールを送れるのだから、国際外交は複雑怪奇である。トランプ大統領もそれを受けて「いつでも金正恩と直接会う」と答えている。一体何があったのか？

◇ アメリカと北朝鮮の関係を紐解いてみると、やはり朝鮮戦争に行き当たる。

龍谷大学の李相哲教授によれば、一九四九年に中共の毛沢東が中国に居る朝鮮族部隊五万人の処分に困り北朝鮮に送り込んだ処から、この裏話は始まるようだ。

当時の韓国軍は二万人しかおらず、金日成パルチザン軍は一気に南下し、ソウルを陥落させて半島統一を秒読みにしていた。だが北朝鮮軍はここで一週間動きを止めた。ソ連のスターリンが金日成に約束していた武器弾薬の供給が間に合わなくなったからだ。その間にアメリカは反撃体制を整えたのである。

三十八度線まで押し返し、そこで停戦協議となったが、韓国の李承晩大統領はこれを拒否したので、アメリカと北朝鮮の停戦協定となった。中共は北朝鮮の後見人の立場であった。つまり、朝鮮戦争の停戦協定の合意当事者とは、あくまで北朝鮮とアメリカなのである。韓国は関係ない立場なのだ。

金日成は朝鮮戦争時に自前の武器弾薬が無かったことを反省し、一九七〇年代にソ連製の兵器輸入に精を出した。しかし韓国では朴正熙が大統領になって日本から経済支援を受

け、アメリカ製の新型兵器を輸入し始め、北朝鮮が輸入しているソ連製兵器では歯が立たないことが明白になった。その時から金日成は、通常兵器よりも強力なABC兵器(核・生物・化学)の開発と製造に力を入れるようになった。

金日成の軍事哲学とは、李教授によると、まず敵の弱い所を攻撃し、敵が正面攻撃を仕掛けてきたら逃げて、逃げきれなくなれば話し合いを提案するという卑怯なパルチザン方式だという。

金日成の記録には、テーブルの上にピストルと百ドルを置いて側近に「どちらを選ぶか」と尋ねた話を書いてあるそうだが、その正解は「ピストルを持つていれば百ドル持っている者から奪える」というものだったとのこと。この略取パルチザン主義が、北朝鮮の基本姿勢なのであろう。

◇ 金正日は「先軍政治」を標榜して軍人優遇を続けたが、死の直前に金正恩を朝鮮労働党軍事委員会のナンバー2に就任させ、そこで「先軍政治」から「先党政治」に方針転換させた。党が軍を指導するという共産党本来の形に戻すのが、金正日の置き土産となった。

さて本論に戻るが、アメリカと北朝鮮の話し合いに向けた行程表はどうなっているのだろうか？

北朝鮮が備蓄している外貨は九月までに底をつく予定で、食料も燃料も材料も時間の問題だ。どこかに活路を求めなければ日干しになるが、韓国と戦争する以外の活路は考えられない状況に追い込まれており、強硬な態度を変えない日本政府によって窒息寸前になっていると言っても過言ではない。

かつての日本がABCDE経済封鎖網によって戦争しか活路が残らなかった歴史を、北朝鮮は学習していたにも拘らず、それでも同様の状況に追い込まれてしまった。日本や韓国



の同調者や買収済み政治家を利用することも、既に限界に来た。

北朝鮮では軍人の七〇%以上に栄養失調が見られ、そこから類推すれば国民の飢餓・栄養失調の比率は限りなく一〇〇%に近づく。既に国家として破綻しているのは誰の目にも明らかだ。

それでも文在寅大統領など韓国政府高官たちは、国連左派グループに縋り付いて「北朝鮮の核査察はIAEAのやり方で時間をかけて友好的に」などと時間稼ぎを計画している。北朝鮮には地下施設や地下核実験場などのトンネルが七〇〇箇所もあると判明しているが、北朝鮮政府は数箇所しか公式に認めていない。つまり、紳士的・有効的にIAEAが核査察などしていたら、何年かかっても無駄な時間潰しに終わってしまうということだ。

韓国高官が訪米しトランプ大統領に、南北会談に於いて金正恩が貴方との話し合いを求めていると報告したところ、トランプ大統領は報告を途中で制止した。韓国高官らを「無駄な報告時間には必要ない」と一喝し「いつでも金正恩と直接会う」と返答している。

これを聞いた韓国政府は躍り上がって喜んだが、北朝鮮政府は震え上がった。北朝鮮とアメリカのトップ会談で約束してしまえば、変更もサボタージュも不可能になってくる。つまり、金正恩は現場で追い詰められ、不利な約束に同意させられることが確実にあったのだ。

この裏には、新しく大統領安全保障補佐官になった**ポルトン**(写真)の力がある。ポルトンは北朝鮮の人権問題を絶対に許さないとする立場で「北朝鮮が国民の人権を無視し続けるなら、アメリカは先制攻撃して北朝鮮を解放する」と主張してきた人物だからである。日本の拉致被害者家族と率先して会ったのはポルトンであり、トランプがポルトンを採用したのは「北朝鮮の核とミサイルだけでなく、交渉する主要課題は人権だ」と訴えるためでもある。

この方針は、トランプが大統領選挙の時にキリスト教福音派と約束した通りのことである。イスラエルとの合意も、福音派と共にある。

そういう裏を知らない文在寅大統領は、「朝鮮半島の問題を決めるのに、アメリカに相談して許可をもらう必要はない」などと国内左翼向けのアピールをして墓穴を掘っているのだ。

アメリカが目論む北朝鮮の六月までの行程表は、

①韓国と北朝鮮が会談する時に、平和的半島統一のテーマだけではアメリカは許さない。核・ミサイル・人権をセットにして南北の行程表を作れ。

②北朝鮮が韓国を通じたアメリカの提案を了解するならば、アメリカ政府高官との会談に移る。

③それまでに中国が年間五〇万トンの石油を北朝鮮に供給しているのをストップさせ、海上封鎖も中国がするようにしなければならぬ。

④その上で北朝鮮は「核大国だ」という妄想を捨てて完全に白旗を掲げてアメリカに頭を下げろ。

⑤北朝鮮の地下施設を含めた完全な軍事的施設の見取り図を提出せよ。

⑥金正恩が金王朝の存続を望むのなら、国家と国民を解放せよ。

…そうすれば道は開けるといふものである。



北朝鮮は事実上「末期ガン状態」の国家であり、細々と存続を支援している中国が決断しなければ何事も進まない。中国の実質的なバー2はアメリカと仲良しの王岐山になり、習近平も独善・独裁は許されなくなっている。中共長老たちは中国とアメリカの戦争だけは何か何でも避けたい。でなければ、中国がユーラシア大陸を支配する「一带一路」の計画も吹っ飛び、ロシアと戦端を開く危険性も出てくる。「中国政府のせいではアメリカと北朝鮮は朝鮮戦争を再開させた」という歴史的评价を一番恐れているのは、中共長老たちである。彼らこそ中共最高実力者なのであり、習近平が勘違いしていると命は無い。

学生時代に朴正熙軍事政権に反対する左翼市民運動家だった連中で固められた韓国青瓦台では、アメリカ政府の腹も中国政府の腹も

読めていない。仮に読めたとしても対応力は皆無である。

前提条件が揃えば、トランプ大統領は金正恩に直接会って約束を迫る。約束しても、裏切っても、結果はリビアアキラクか：と疑心暗鬼の北朝鮮は、憤激の腹いせを「地獄に手を引いた文在寅」に持ってゆくだらう。

アメリカとの事前交渉で、リビアは要求通りの資料を提出していたにも拘らず、最終的には先制攻撃されてカダフィ大佐は殺された。濡れ衣を着せられて弁明を続けていたイラク

習近平皇帝の中国が変わる

中華帝国の皇帝として君臨する段取りに入った習近平は、毛沢東や鄧小平を超えることを目指していると憶測されているのだが、どうやら目指しているのはオスマントルク帝国らしい。評論家たちはスケールを小さく考え過ぎているようだ。

オスマントルクは領土拡大のために軍隊の先頭に軍楽隊を数千人置いて、行進曲は数キロ先まで聞こえ、それを聞いた村々では白旗を掲げて「服従」を誓って戦争を避けた。そうやって領土を拡大しながら、ジズヤ（人頭税）さえ支払えばイスラム教に改宗する必要も無いとして被征服民を手なづけた。

オスマントルクは激しい戦いをする事もなく領土拡張し、経済的にも連邦国家的にも拡大を続け、敵はキリスト教国家群ではなく「内部権力闘争」という帝国の末期症状を呈するようになる。習近平はそうなる前に「反腐敗運動」として共産党幹部を徹底的に取り締まって内部規律を固め、「共産党法治主義」を確立する方向を急いだ。

中国では前政権時代から続いた「バブル経済発展政策」を主導していた周小川中央銀行局長が引退し、その後には正反対の政策を推進していた劉鶴（写真）が就任することになった。周小川はFRB議長の際にアメリカ力をバブル経済にしたグリーンズパンとの関係が深く、借り入れ利子を超える運用利益を保証する経済発展方式を採用して中国を経済大国に早変わりさせた。バブルは異常な速度で膨張し、共産党幹部たちは有り余る横領した人民元を外国為替でドルに替えて海外に移した。

は、ありもしない化学兵器や生物兵器を捏造されて先制攻撃されてフセインは殺された。北朝鮮は逃げ場がなくなっているが、抵抗する力量すら「水爆ICBM」だけしか無い。それを発射すれば、北朝鮮は反撃により世界地図から消滅することになる。

五月までのアメリカと韓国の行程表については、ソウル青瓦台が賢明な判断をするだろうという希望的観測で「良好」と考えるべきだろう。ただ、トランプ大統領が文在寅大統領を信用していないのは周知の事実：だが。

当該国に親族を移住させ、銀行口座を管理させた。それでも周小川の手腕は凄く、中国経済が崩壊することもバブルが破裂することも無かった。

習近平は「一帯一路」で世界中から投資金を集めることを目的に、「オスマントルク作戦」を推進することとなった。すると経済政策の変更が必要になり、劉鶴が最適任ということになった。

「反腐敗」で逮捕起訴された共産党幹部は数えきれず、それら小悪人たちがいくらか「反習近平」を画策してもゴマメの歯軋りでしかなかった。腐敗幹部を肅正するのは、これからの「中国オスマントルク作戦」には不可欠の手段なのだ。



これからの我が国が、米英の支配下から離れて中露に接近するののかとの議論があるが、「よく知らぬ仏様より、馴染みのある鬼の方が優しい」という昔からの格言でそれに答えておこう。「白か黒か」「右か左か」という極端な議論はしてはならない。罰を当てる仏様もあれば、ご馳走してくれる鬼もいる。仏様が鬼かという分け方をせず、何をしてくれるのかで判断しよう。

我々は「日本」なのであり、救世主でもなければ世界の盟主でもない。目の前の利害に囚われたり、勘違いして尊大になるような身の程知らずは十分に慎みたいものである。

LGBT大流行のきざし

LGBTとはご存じのように、レズ（女性同士の恋愛）、ゲイ（男性同士の恋愛）、バイ（男女どちらでも恋愛）、トランス（性が男女入れ替わっている）の略語である。

国際的にはカナダのLGBTパレードが有名で、政府が援助して首相が挨拶したりする。世界中からLGBTの人々が集まり、異様な格好でアピールしながら市街を練り歩く。

我が国に於いてはLGBTはまだ日陰者で、広島県や愛媛県で行なわれるLGBTの小規模なデモ（レインボーパレード／七色の旗を掲げる）には他府県からの百人程が集まるに過ぎない。元アメリカ駐大阪総領事がレインボーパレードを熱烈に応援していたのだが、それは自身がゲイだったからである。西宮市の総領事官邸には、彼の妻と称するブラジル人のオヤジが住んでいた。

しかしこれも、前駐日大使のケネディ女史が熱心なクリスチャンだったことから激怒を誘い、中止に追い込まれた。

さて、最近のLGBT推進の動きは映画界を見れば一目瞭然で、今までのレズやゲイだけではなく、「ナチュラルウーマン」というトランスジェンダーをテーマにした名作が出てきたりしている。

まだハリウッドの常識は、男女どちらでも愛するBについては少し変態の扱いである。それ以外のLGBTは全てが許容の範囲であり、これからは推進されるべき人権だと称揚する。

ここで我々が考えるべきは、LGTでは子供が産まれないという問題だ。これは実は「人類は繁栄する」という宗教の基本原則に反しているのである。

我が国でも、イザナギが黄泉の国に行ってしまったイザナミに会いに行くが、黄泉の国で食事をしてしまったイザナミは戻ることが叶わずに、腐り果てた醜い姿を見てしまったイザナギを追いかけるが、大きな岩で道を塞がれてしまう。そこでイザナミは、これから



は人間を毎日一、〇〇〇人ずつ殺してやると言う。イザナギはそれに答えて、では私は毎日一、五〇〇人ずつ人間を産み出そうと言う。キリスト教でもイスラム教でもそうらしいが、人間は産み増やして地に満ちることを目的としているものだそうだ。そうやって考えれば、最近のLGBT推進の話は「反宗教倫理」「反宗教体制」の確立を目指しているのかもしれない。

ハリウッドが反宗教なのはよく言われることだが、プロデューサーや投資家たちの意向で脚本は如何様にも書き換えられるので何ともわかりにくい。

もしかすると最近のLGBT推進は、人類を消滅させる目的のものかもしれない。世界指導者を自認しているローマ会議なども、「無駄な」人類を整理することの重要性をアピールしている。貧しく頭も悪く戦争好きな未開人は切り捨てよというのがローマ会議の本音だとすれば、それらの意志を引き受ける映画界がLGBT推進の旗振り役になることには違和感が無い。

子孫繁栄のために若者の結婚出産を応援するというのが国家の基本姿勢だと聞くことが少なくなり、税収増加のために人口を増加させたいと聞く機会が多くなった。当面の税収増加に結びつく「金持ちLGBTを応援して婚姻届を受け付ける」という自治体の姿勢が、ローマ会議の意図と一致するように見えるのは、果たして偶然なのだろうか。

良書紹介



ジャーナリスト水間政憲氏による
南京虐殺（否定）決定版証拠写真
の数々に刮目せよ ■ビジネス社刊

ジプシーの「漂泊性」から見えてくるもの

むすびの集ひ 事務局

最近では映画字幕界を中心に、ジプシーという言葉の翻訳語は「ロマ人」と言い換えることが決められている。ジプシーを差別言語だと決めつけているのだ。

ところが当のハリウッド映画界では、ジプシーとは漂泊民の代表的な存在としており、言葉狩りのような卑怯な逃げは打ってはいない。

ジプシーは謎の漂泊民とされているが、ジプシーを追ったドキュメンタリー映画「ラッチョドローム」という作品の中では、ジプシーとは約一、〇〇〇年前にインド北部に定住していた民族が、王から理由も不明確なまま国を追放され、西へ西へと民族が絶えるまで流れ続けることが義務付けられたというのである。そのために、インドから見た西の端に当たるスペインに、多くのジプシーが溶け込んだというのである。

ジプシーの中核をなす「ロマ人」は、今でも家族や親族ごとにバンに乗って移動を続けている者がいる。定住が許されなかった時代から現在のような人権救済の時代になっても、ヨーロッパのどこかの地方に永住権を求めずに漂泊を続けている。漂泊こそがロマ人のDNAなのである。

ヨーロッパの漂泊民族にはロマ人以外にも、北アフリカ系、東ヨーロッパ系の者もある。だが、本を正せばインド北部にルーツがあると言われている。一、〇〇〇年前のインド北部で何があったのかは知らないが、約二、〇〇〇年間も離散していたユダヤ人の例もあり、民族の物語には現在から歴史を逆向きに眺めても理解できないものが多い。

ジプシーは長い間、ヨーロッパでは一箇所で一カ月以上留まることが許されなかったようである。その間に、鋳物加工や皮革加工をしたり、歌や踊りを酒場で演じたり、売春や占いで稼いだりしていたという。

なぜ定住が許されなかったかの理由は、ジ

プシーの行為が当時のキリスト教の背信行為になるタブーばかりだったからとされる。また、習俗や文化も反キリスト教的であり、ジプシーという人間性そのものが反キリストだったと認定されていたようである。

キリスト教では、占い・星読みはタブーであり、ハンセン病や悪魔などを恐れないこともタブーであり、売春を生業とすることは最大のタブーだった。だからジプシー女性が「魔女」として火あぶりにされた例も多いようだ。キリスト教がヨーロッパを支配していた時には、ジプシーは各地で追い払われて漂泊せざるを得なかったのだろう。

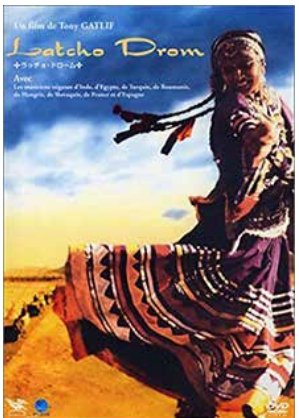
スペインはキリスト教・イスラム教・ユダヤ教などに振り回された歴史があり、権力の狭間的な部分を社会の中に抱き込んでいた。

その狭間にひっそり定住するジプシーが多くなり、アンダルシア地方のサクロモンテなどでは、定住するジプシーに貧富の差が発生し、貧しいジプシーたちは丘の上と呼ばれる山に追いやられ、その洞窟を根拠地にしてフラメンコなどの演芸場を完成させた。

貧しいジプシーの子供は、男の子はフラメンコ、ギター、サーカス、料理人を目指し、中には傭兵やギャングを目指す者もいた。女の子はフラメンコ、ストリップパー、売春婦を目指すし、中には観客に請われて金持ちの養子になる者もいた。

サクロモンテの丘では、ヨーロッパ中だけでなくアメリカからも「浮世離れ」した洞窟にやってくる金持ちたちが多く、スカウトされて映画界や音楽界で活躍する者も出てきた。ユル・ブリンナーなどのハリウッドスターも、サクロモンテのジプシー出身である。

ジプシーのDNAがどのような宗教性や道徳性を持っているかは知らないが、それが原因でキリスト教に反対され弾圧されて定住させてもらえなかったことは確かなことだろう。キリスト教に弾圧されたらイスラム社会



に救いを求めれば良いと思うが、イスラム社会にはジプシーの住処はなかった。なぜだろう。

モンゴルでもウイグルでもそうらしいが、「敵の女に子供を産ませる」ということで侵略してゆくらしい。支那でも「血が混ざれば混ざるほど漢民族の血が強くなる」と考えられて混血を進めた歴史があるようだ。民族的な理由は宗教的な理由を超えることが多いが、ロマ人は民族的な意味でヒンズー教・仏教・道教・ラマ教・イスラム教・ゾロアスター教などの人々から忌避される理由があったと見られる。それは各宗教に共通する「地獄」の者だからであろう。我が国的に言えば、黄泉の国の鬼だからである。

ヨーロッパはキリスト教社会だが王や貴族の権力もあり、権力が複雑な構造的階層を持っていたおかげで、追放を繰り返しながらもジプシーはヨーロッパを漂泊し続けることができたのである。

もしジプシーに我が国の修験やシノビのような戦力があれば、王たちはジプシーを定住させてサンショなどの部落にしたことだろう。

本部、地方本部活動報告

■本部、関東・東北本部

◇三月二十五日(日)

・午前十一時より、東京都江東区の山口先生宅前にて、民族革新会議・憂国青年同盟主催による「山口申先生卒寿お祝い餅搗き大会」。

杉山副党首が出席。

◇四月二日(月)

・正午より、東京・隅田川沿線にて、山口申先生主催「観桜会」。杉山副党首が出席。

■関西本部

◇四月十三日(金)

・午後六時半より尼崎にて「むすびの集い」勉強会。党員、有志計六名参加。資料は「エタとジプシーの差を考える」「兵庫県内に増える子ども食堂」「親日の在日・呉亮錫の直言」ほか。

■九州本部

◇三月十二日(月)

う。また金で雇われる殺し屋集団としてのシノビの里を作ったかもしれない。しかしジプシーには、サンカ筋のような特殊技能に恵まれていなかった理由があり、一、〇〇〇年間も漂泊を続けねばならなかったのだろう。

ジプシーが我が国のエタのように古事記由緒の不浄に関係する職業にあったかどうかは知らないが、社会や権力にとって必要不可欠な存在であったなら(エタのように)追放され続けることは考えにくい。むしろ逆に、ジプシーを被差別部落に閉じ込めて役立たせる方が数段賢い。それが無かったということは、理由があることなのだ。

ジプシーを差別用語だと認定した先進的な人々は、ジプシーの何を被差別だと感じてタブー視するのだろうか。我が国の漂泊の民に踏み込まず、ヨーロッパのジプシーにのみ注目するのもバランスの悪い話だが、戦時中に逮捕され無理やり戸籍を作らされて兵隊に取られて消滅した「由緒正しい乞食」と呼ばれた民がいたことを忘れてはなるまい。そこに「漂泊性」の謎を認めなければ、異国のジプシーの漂泊性を解明することは不可能である。

・竹島方面の有事を想定して、

船舶専従員五名で吉岐対馬海域へ航行訓練を実施した。当日は、

陸岸より二十五海里水域にて方位ヘディングを

IV方向と目測し、風向・潮流・

速力等を計測しながら、到達度を実施訓練した。尚、船舶専

従員については今後の訓練に支障なきよう匿名

とするので了解されたい。

詳細は後日、本紙で報告する予定である。

